

CCT ワークショップ 2019 開催案内

～地球を支える石炭資源と炭素循環利用技術！～

<CCT ワークショップ開催の背景と目的>

2016年に発行した「パリ協定」に基づき、各締約国はエネルギーの使用と供給に関して、CO₂を始めとする温室効果ガスの排出量を削減する「低炭素化」の政策を進めています。パリ協定については、2018年12月にポーランドで開催されたCOP24で、実施ルールが議論されましたが、資源としての石炭の重要性が異なる途上国と先進国に同じルールを当てはめることは難しく、政策論そのものに関する統ルール採択には至らなかったようです。

一方2015年9月の国連サミットでは、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するための目標として、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) が採択されました。SDGsは途上国と先進国の共有する17の目標、169のターゲットから構成されており、エネルギーに関する目標は、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに—すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する—」とし、同目標のターゲットの一つが、「2030年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。」とされ、化石燃料の利用とクリーン化の研究の重要性と投資の必要性が謳われています。政府や自治体ならびに企業は、SDGsの実現に向けて取組み、明るい地球の未来を築くことが重要です。

国内では、2050年までの温室効果ガス80%削減に向けて、CO₂の分離・回収や利用に係る研究開発とそのイノベーションが重要であり、経済産業省は、イノベーションの効果的な推進を目的に、本年2月に資源エネルギー庁長官官房に「カーボンリサイクル室」を設置しました。同組織では、CO₂を炭素資源(カーボン)として捉え、これを回収し、多様な炭素化合物として再利用(リサイクル)するというカーボンリサイクル技術の構築について、鋭意取り組んでいます。

弊センターは、このような内外の情勢を反映し、4月に炭素循環室を設置し、SDGsの実現を目指して、クリーンエネルギーとしての石炭利用技術開発を進めております。SDGsは、環境・経済・社会的合理性に基づく技術開発、国際協力が必要であり、会員企業の皆様とともに、新たな具体的プロジェクトを展開したいと考えています。CCTワークショップ2019では、特にCO₂排出削減・利用拡大に繋がる炭素循環利用技術を主要テーマとし、今後の石炭利用技術の方向性を皆様とディスカッションできることを目標に開催致します。是非、ご参加下さい。

1. 主催

JCOAL (一般財団法人石炭エネルギーセンター)

2. 日時

令和元年 7月12日(金) 9:00 - 12:25 特別講演1、基調講演及びセッションI
13:15 - 17:40 セッションII、III、総括

3. 場所

KFC Hall & Rooms (国際ファッションセンター)

東京都墨田区横網1丁目6番1号 (<https://www.tokyo-kfc.co.jp/facility/hall/index.html>)

4. 後援

経済産業省

5. 意見交換会

KFC Hall & Rooms 3階「ホワイエ」

令和元年7月12日(金) 17:50-19:20 参加費 5,000円

6. 参加対象者

JCOAL会員企業

7. 参加申込み方法

JCOAL web site (<http://www.jcoal.or.jp/>) に掲載

※講演要旨集はございませんので、同web site掲載の講演スライドをご参照下さい。

<CCT ワークショップ 2019 プログラム(案)>

7月12日(金)

(9:05-9:15) **開会挨拶** JCOAL (北村会長)

(9:15-10:00) **特別講演**

「カーボンリサイクルを達成する次世代型人工光合成技術」
東京理科大学 光触媒国際研究センター 教授 寺島 千晶

(10:00-10:40) **基調講演**

「最近の石炭関連の政策について」
資源エネルギー庁 長官官房 カーボンリサイクル室長代理
資源・燃料部 石炭課長 吉岡 正嗣

(10:45-12:25) **セッション I 『CO₂の固定技術』**

モデレーター：群馬大学 大学院理工学府環境創生部門 特任教授 宝田 恭之

I-1 CO₂地中貯留における鉱物固定

公益財団法人地球環境産業技術研究機構 CO₂貯留研究グループ 三戸 彩絵子

I-2 環境配慮型コンクリート「CO₂-SUICOM」について

中国電力株式会社 電源事業本部再生可能エネルギー・土木総括グループ 河内 友一

I-3 ブルーカーボンの取り組み

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授 佐々木 淳

(12:25-13:15) 昼食

(13:15-15:30) **セッション II 『カーボンリサイクル技術』**

モデレーター：一般財団法人電力中央研究所 研究参事 白井 裕三

II-1 CO₂変換プロセスの動向と現行技術の適用可能性評価

一般財団法人電力中央研究所 環境科学研究所 主任研究員 亘理 龍

II-2 CO₂を原料としたメタネーション・オレフィン合成

株式会社 IHI 資源・エネルギー・環境事業領域 事業開発部 部長 須田 俊之

II-3 ダイヤモンド電極を用いた CO₂還元による有価物生成

慶応義塾大学 理工学部化学科 教授 栄長 泰明

II-4 フォトン・アップコンバージョン

九州大学大学院 工学研究院応用化学部門 准教授 楊井 伸浩

(15:30-15:50) 休憩

(15:50-17:25) **セッション III 『石炭利用と CO₂削減』**

モデレーター：名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授 成瀬 一郎

III-1 再エネ導入時の火力機のメリットオーダーと調整力の価値評価

一般財団法人電力中央研究所 エネルギー技術研究所 上席研究員 吉葉 史彦

III-2 250MW_IGCC の商用運転実績および 543MW_IGCC の建設状況

常磐共同火力株式会社 IGCC 事業本部長 石橋 喜孝

III-3 大崎クールジェンプロジェクトの進捗状況

—CO₂分離・回収型酸素吹 IGCC 実証事業—

大崎クールジェン株式会社 代表取締役副社長 木田 一哉

(17:25-17:35) **総括セッション** (一財)九州環境管理協会 顧問 持田 勲

(17:35-17:40) **閉会挨拶** JCOAL (塚本理事長)

(17:50-19:20) **意見交換会** KFC Hall & Rooms 3階「ホワイエ」

以 上